

二〇二一年一月八日

寒波来る朝のゴミ出し小走りに
寒風を滑るがごとく船戻る
歓声や達磨となりし初日の出
無人市棚無一物山眠る
初春や畝よりのぼる土の息

二〇二一年一月七日

初鏡母の齢を越えにけり
食細き母これならと薺粥
二〇二一年一月六日

雲切れて天使のはしご初御空
白粥の花と綴じたる寒卵
パツク詰なる七草の売られけり
葱剥いて白なまめかしとぞ思ふ
初笑ひめく里山の鴉かな
二〇二一年一月五日

ゆがみたる自家製大根洗ひけり
金色の波を畳みし寒夕焼
初風呂の入浴剤は草津の湯
通院の患者同士の御慶かな
三輪山の光背となり初日出づ
雪をかく姐さんかぶりもその中に
炊きたてに煮凝り躍る朝餉かな
雪に振る道路工夫の赤き旗
巫女の舞鈴振る方が恵方かな
リビングに日の燦燦と今朝の春
詫助や掃き浄めたる裏鬼門
二〇二一年一月四日

いただきし節料理にて足るふたり
お年玉領収証は子の笑顔
潮焼けの漁師の笑みや浜焚火
凍てし田に打ち捨てられし大根葉
夫の靴磨き初めたる四日かな
漆黒に寒オリオンのしるきかな

あさこ	よし女	治男	うつき	明日香	百合	ひかり	花茗荷	菜々	満天	とうち	英子	あさこ	せいじ	よし女	うつき	明日香	こすもす	すずかぜ	花茗荷	よし子	はく子	有香	せいじ	宏虎	花茗荷	明日香	とうち	百姓
-----	-----	----	-----	-----	----	-----	-----	----	----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	-----	-----	-----	----	-----	----	-----	-----	-----	----

瞬くは飛行灯らし冬銀河
子は銀婚夫は傘寿の屠蘇祝ふ
二〇二一年一月三日

蹲踞や掬へば崩る初氷
子等去にて一息入るる三日かな
初御空日の丸高く揚げにけり
満天星のマツチ棒めく冬芽かな
ユーモアの多き法話に初笑
深山路線画のごとき枯木かな
二〇二一年一月二日

寒風に踊りだしたる濯ぎもの
どつぷりと傘寿沈まむ初湯かな
新しき句帳に一句年始め
枯木立高枝は雨に煙りけり
雨晴れて葉牡丹に珠ひかりをり
パン屑を口いっばいに初雀
耐へ兼ねて雪落としたる大樹かな
柏手に飛び立つ鳩や初詣
二〇二一年一月一日

冬山の天辺に消ゆ送電線
祖母と孫背くらべして初写真
一番機飛び立つみ空初明り
子ら入れて少しのぼせし初湯かな
二〇二一年二月三日

風邪の夫厨をそつとのぞきけり
冬山に樹を打つ斧の遠笹
三代代揃ひ屠蘇酌む我が家かな
二〇二一年二月三日

蒼天に網を張るごと大枯木
老二人年の用意はそこそこに
どことなく生まるる水輪浮寝鳥
年用意セピア色なるレシピ手に

毎日句会みの選・二〇二一年八月二日

うつき	よし女	あさこ	ぼんこ	三刀	うつき	満天	花茗荷	三刀	ひかり	はく子	とうち	満天
-----	-----	-----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	-----	-----	----